

『水平社宣言』（中学生用）

宣言

全国各地にいるわが差別を受けている部落の人々よ団結せよ。

長い間いじめられてきた仲間たちよ、過去五十年間に様々な方法と、多くの人々によってなされた私たちのための運動が、何ひとつ差別解消の効果をもたらさなかった事実は、それらの全てが私たちにあって、また他の人々によって、つねに人間の尊厳をおかしてきた罰であったのだ。そしてこれらの人間をだめにする運動は、かえって多くの仲間を墮落させたことを想えば、このさい私たちの中より人間を尊敬することによって、自ら自由と平等を求める集団運動を起こすことは、むしろ当然である。

仲間たちよ、私たちの祖先は自由、平等を心から求め実現してきた者であった。厳しい支配政策（身分制度）の犠牲者であり、命がけてたくましく社会を支えた者であった。死牛馬の皮をはぐ報酬として、生々しき人間の皮をはぎ取られ、死牛馬の心臓をさくかわりに、あたたかい人間の心臓を引きさかれ、そこへあざけ笑うような唾まで吐きかけられた呪われの夜の悪夢のうちにも、なお誇りうる人間の血は、かれずにあった。そうだ、そして私たちは、この血をうけて人間が神にかわろうとする時代にめぐりあったのだ。差別の犠牲者が、その身体に焼き付けられた差別を世の中に投げ返す時がきたのだ。命をかけて差別と闘ってきた人々が、その苦悩の中で闘ってきたことを祝福される時がきたのだ。

私たちがエタであることを誇りにする時がきたのだ。

私たちは、自分を低くみる言葉と差別に臆病になる行為によって、祖先を辱め人間の尊厳をおかしてはいけない。そして人の世の冷たさが、どんなに冷たいか、人間をだめにするのが何であるのかをよく知っている私たちは、心から人生の熱と光を強く求めその実現をめざすのである。

水平社は、このようにして生まれた。

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

大正十一（一九二二）年三月三日

全国水平社創立大会